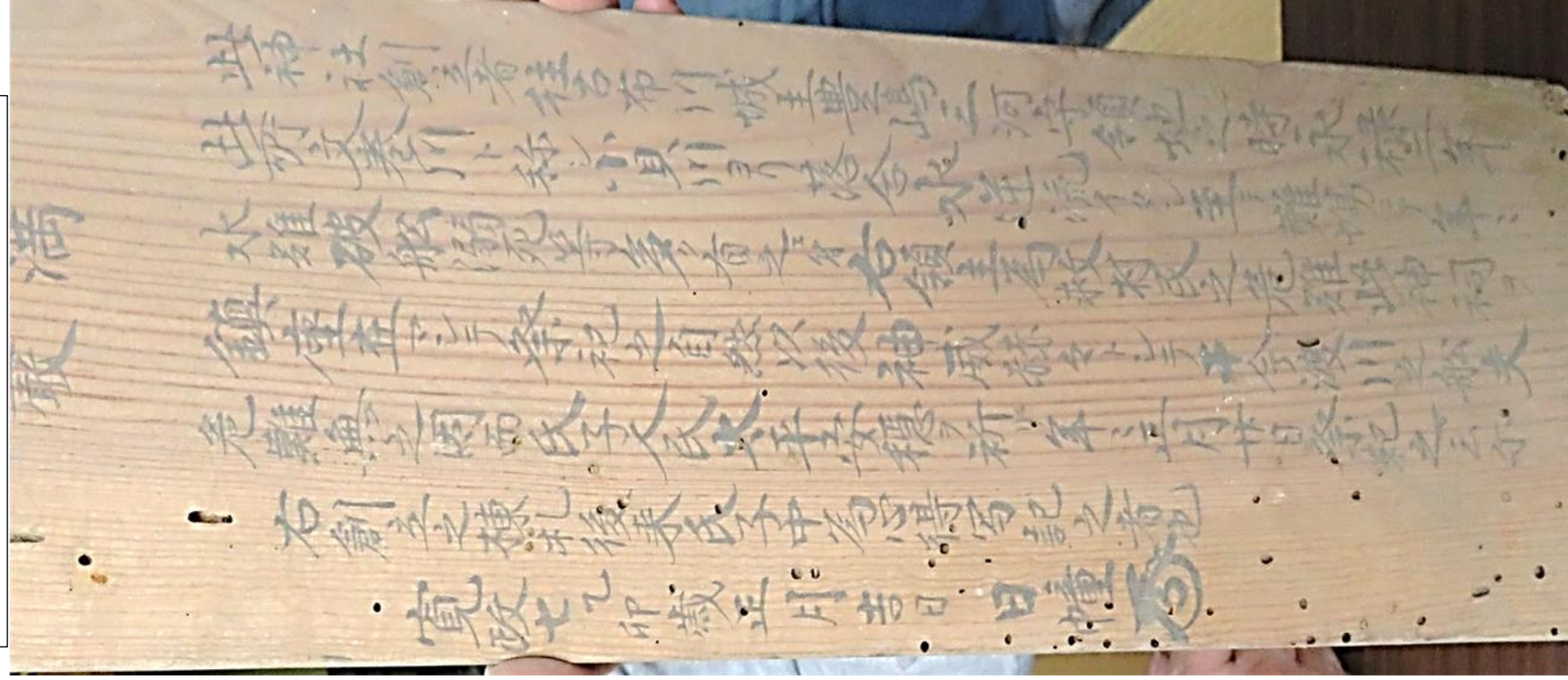


別冊資料1 押付「水神社」棟札



上部は朽  
ちて文字  
不明



- 永祿三年・・・一五六〇年
- ・・・不明
- 寛政七年・・・一七九五年
- 日幢・・・徳満和尚

此神社創立者往古布川城主豊嶋三河守領地之時永祿三年  
 此の所文卷川ト称シ小貝川ヨリ落合水逆流イタシ至テ難場ニテ年々  
 水難破船溺死等多ク有之□付右領主為救村民之危難此神祠ヲ  
 鎮座在マシテ祭祀之自然以後神威赫々トシテ□今渡川之船夫  
 危難無之□而氏子人民太平安穩ヲ祈リ年々正月廿日祭祀之云尔  
 右創立之棟札後末氏子中為心得写記之者也  
 寛政七年乙卯歳正月吉日 日幢

別冊資料2 飯沼



国土地理院「治水地形分類図の画像・龍ヶ崎」の部分

別冊資料 3-1



別冊資料3-2 (3-1の凡例)

凡例

その他の地形等	天井川の区間	分類	中分類	小分類	細分類	記号	
河川管理施設等 (許可工作物も含む)	旧堤防	旧堤防	旧堤防	完成堤防	扇状地 山麓堆積地形		
				暫定堤防			
				暫々定堤防			
				河川管理施設			
				許可工作物			
				物も含む			
				護岸			
				河川工作物		水位観測所	
				流量観測所			
				水質観測所			
雨量観測所							
樋門・樋管							
水門・閘門							
揚排水機場							
天井川の区間	現河道・水面	現河道・水面	現河道・水面	天井川の区間	扇状地 山麓堆積地形		
				現河道・水面			
				旧流路		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
						T.末期～S.初期	
						M.末期～T.初期	
				地盤高線		主曲線	
						補助曲線	
				旧堤防		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
	T.末期～S.初期						
	M.末期～T.初期						
堤防	完成堤防						
	暫定堤防						
	暫々定堤防						
護岸							
河川工作物	水位観測所						
	流量観測所						
	水質観測所						
	雨量観測所						
	樋門・樋管						
	水門・閘門						
	揚排水機場						
その他の地形等	現河道・水面	現河道・水面	現河道・水面	天井川の区間	扇状地 山麓堆積地形		
				現河道・水面			
				旧流路		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
						T.末期～S.初期	
						M.末期～T.初期	
				地盤高線		主曲線	
						補助曲線	
				旧堤防		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
	T.末期～S.初期						
	M.末期～T.初期						
堤防	完成堤防						
	暫定堤防						
	暫々定堤防						
護岸							
河川工作物	水位観測所						
	流量観測所						
	水質観測所						
	雨量観測所						
	樋門・樋管						
	水門・閘門						
	揚排水機場						
その他の地形等	現河道・水面	現河道・水面	現河道・水面	天井川の区間	扇状地 山麓堆積地形		
				現河道・水面			
				旧流路		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
						T.末期～S.初期	
						M.末期～T.初期	
				地盤高線		主曲線	
						補助曲線	
				旧堤防		S.30年代後半～S.40年代前半	
						S.20年代	
	T.末期～S.初期						
	M.末期～T.初期						
堤防	完成堤防						
	暫定堤防						
	暫々定堤防						
護岸							
河川工作物	水位観測所						
	流量観測所						
	水質観測所						
	雨量観測所						
	樋門・樋管						
	水門・閘門						
	揚排水機場						

(3) 微高地 (自然堤防) [地形の特徴]

自然堤防は、比較的規模の大きな洪水が運んだ大量の砂礫が河岸に堆積してできた周囲より少しだけ高い丘のような地形です。治水地形分類図の「微高地 (自然堤防)」は自然堤防のほか、扇状地上の規模の大きな砂礫州や古い天井川沿いの微高地も含んでいます。

[防災上の留意点]中小規模の洪水に対しては比較的安全ですが、大規模な洪水が起こると冠水被害を受ける可能性があります。また、洪水時に河川が運搬した砂礫が堆積した地形なので、地下水位の浅い縁辺部では強い地震動による液状化の発生に注意が必要です  
空中写真等から、一般面との比高が0.5～1 m程度以上あるものについて適用する。  
旧版地形図上の土地利用も参考とする。

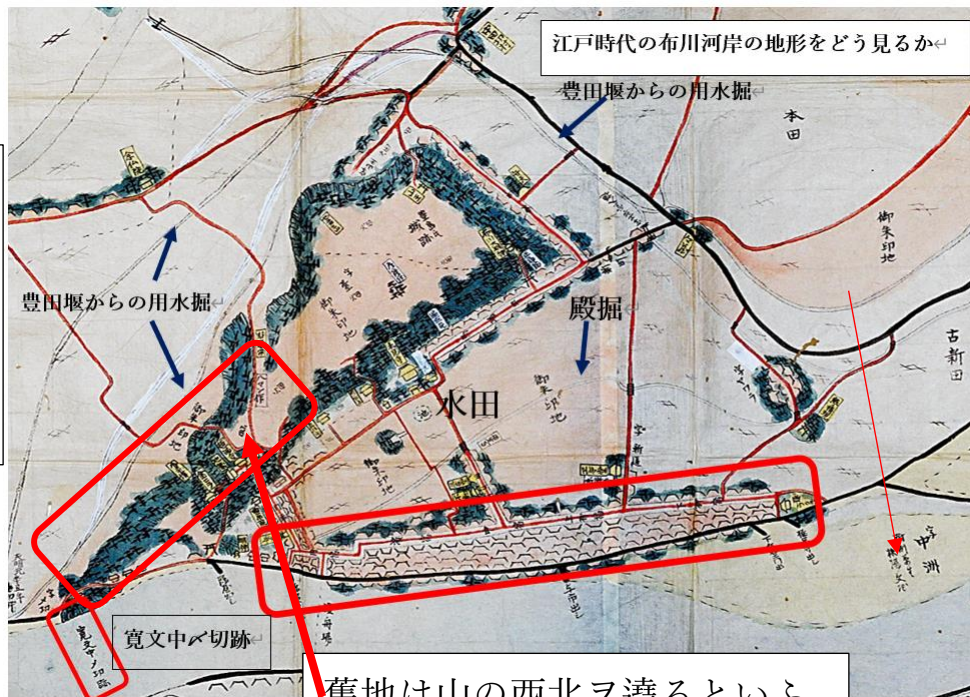
『利根川図志』卷三、「布川」の項に「舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ」

※「遶(めぐ)る」周囲を取り囲む。取り巻く。

布川 古ハ付川と書きて豊島家ふ有一千葉家ふ屬一數軍功あ  
り一が常總軍記卷十五千葉家濫觴條云滑川龍臺の織田左京  
男頼定を攻落し檢見川の伊北大學を落し生實頼純の家督次  
り安食上下利根を銚子より海上、匝瑳香取千葉印幡北相馬を取  
寺臺大倉小見川東米野井長沼存川横須賀旗下一族最多し助崎  
馬加六須賀圓城寺村田山部森戸神崎藤崎餃高鎬木石橋小石岡  
橋廣岡青木伊能尾金田林長澤印西ハ口を限る旗下家臣夥く  
云關東古戰録卷五武州村岡河原軍事條云天文廿二年癸丑  
四月上旬累總州の千葉介利胤ハ畧村岡河原著馬一龍崎土  
守谷布川築田一色小山近藤等の味方を待受け云々  
 岐家ふ奥山砦を奪ハれ一不因りて援兵を乞へども果さる  
 時常陸國河内郡足高なる岡見中務必輔の長臣栗林下總守義  
 長の計不因て岡見家ふ屬一その後小田原北條家ふ屬一その  
 落城の時同く家絶えり鎌倉九代後記小田原籠城人  
數の中ふ布川弥太郎あり  
 布川ハ一帯の丘山を背ふ前ハ利根川ハ臨みて街衢を列ね  
 人烟輻湊して魚米の地と稱する不足れり舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ殊に  
 川北

舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ殊

別冊資料5-1



舊地は山の西北ヲ遶るといふ

別冊資料5-2

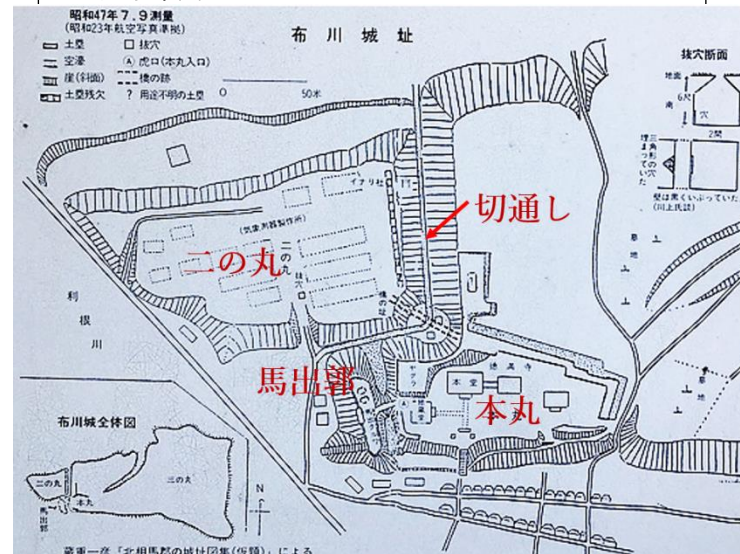


迅速測図



昭和3年測図、昭和5年発行・大日本帝国陸地測量部 竜ヶ崎部分

別冊資料5-3 布川城址



- ① 等高線の間隔が他の場所に比べ狭い
- ② 山すそ近くまで水田として活用されている



国土地理院「治水地形分類図の画像・龍ヶ崎」の部分